

資料1 分析結果（場内浸透水、周辺地下水[Ks3層、その1]）

調査地点	場内浸透水				K s 3 層地下水				安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
	揚水ピット				H24-8(2)						
採取日	R3.5.24	R3.9.2			R3.5.24	R3.9.2					
現場測定項目	現場測定結果				現場測定結果						
気温(°C)	24.0	28.0			22.0	25.0					
水温(°C)	19.0	22.0			16.1	17.4					
採水水深(m)(GLより)	-	-			4.37	4.50					
分析項目	分析結果				年間平均値	分析結果			年間平均値		
pH	7.1	7.1			7.1	6.6	6.8		6.7	-	-
BOD (mg/L)	4.0	4.4			4.2	-	-		-	20mg/L	-
COD (mg/L)	11	11			11	-	-		-	40mg/L	-
SS (mg/L)	8.5	7.4			8.0	-	-		-	-	-
EC (mS/m)	170	150			160	13	12		13	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	-	-		-	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.23	0.21			0.22	-	-		-	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	1.0	1.0			1.0	-	-		-	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	-	-		-	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出			不検出	-	-		-	検出されないこと (0.0005mg/L)	検出されないこと (0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	-	-		-	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-		-	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004			< 0.004	-	-		-	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-		-	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-		-	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	-	-		-	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	0.008	0.010			0.009	-	-		-	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	2.2	2.3			2.3	-	-		-	-	-
マンガン (mg/L)	2.7	0.49			1.6	-	-		-	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.06	0.07			0.07	-	-		-	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	0.36	0.48			0.42	-	-		-	-	-
アンモニア性窒素 (mg/L)	0.93	1.06			1.00	-	-		-	-	-
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)	2.46	2.01			2.24	-	-		-	-	10mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.071	0.089			0.080	-	-		-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料2 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その2]）

K s 3 層 地 下 水														
調査地点	H26-S2(2)					H24-2(2)								
採取日	R3.5.24	R3.9.2				R3.5.24	R3.9.2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	23.0	26.0				20.0	20.0							
水温 (°C)	18.9	17.7				16.6	17.3							
採水水深 (m) (GLより)	10.63	10.26				14.95	14.95							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.8	6.8				6.8	6.1	6.0			6.1	—	—	
BOD (mg/L)	2.4	2.4				2.4	1.1	0.8			1.0	20mg/L	—	
COD (mg/L)	13	12				13	2.3	2.7			2.5	40mg/L	—	
SS (mg/L)	3.0	3.2				3.1	< 1.0	< 1.0			< 1.0	—	—	
EC (mS/m)	160	150				160	33	34			34	—	—	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	0.18	0.18				0.18	< 0.08	< 0.08			< 0.08	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	1.5	1.3				1.4	0.2	0.2			0.2	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	0.044	0.041				0.043	0.007	0.009			0.008	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	0.83	0.72				0.78	0.16	0.15			0.16	—	—	
マンガン (mg/L)	3.4	4.3				3.9	0.38	0.37			0.38	—	—	
溶解性鉄 (mg/L)	0.07	0.08				0.08	0.06	0.06			0.06	—	—	
溶解性マンガン (mg/L)	3.3	3.6				3.5	0.29	0.36			0.33	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.059	0.067				0.063	0.058	0.067			0.063	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-cd]ピレン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料3 分析結果（周辺地下水【Ks3層、その3】）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H24-4 (2)				C-7							
採取日	R3.5.24	R3.9.2			R3.5.24	R3.9.2						
現場測定項目	現 場 測 定 結 果				現 場 測 定 結 果							
気温 (°C)	22.0	23.0			24.0	24.0						
水温 (°C)	14.3	18.1			17.6	20.4						
採水深 (m) (GLより)	5.14	4.94			4.00	4.00						
分析項目	分 析 結 果				年間平均値	分 析 結 果				年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	5.2	5.1			5.2	6.2	6.5			6.4	-	-
BOD (mg/L)	< 0.5	< 0.5			< 0.5	0.7	1.8			1.3	20mg/L	-
COD (mg/L)	< 0.5	< 0.5			< 0.5	4.5	4.8			4.7	40mg/L	-
SS (mg/L)	< 1.0	< 1.0			< 1.0	180	31			110	-	-
EC (mS/m)	4.4	4.8			4.6	69	63			66	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ヒ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08			< 0.08	< 0.08	0.09			0.09	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1			< 0.1	0.3	0.3			0.3	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.006	< 0.005			0.006	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出			不検出	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (0.005mg/L)	検出されないこと (0.005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004			< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.05	0.06			0.06	5.4	2.4			3.9	-	-
マンガン (mg/L)	< 0.01	0.02			0.02	2.7	2.3			2.5	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	< 0.01	< 0.01			< 0.01	0.87	0.70			0.79	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	< 0.01	< 0.01			< 0.01	2.3	2.0			2.2	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.097	0.068			0.083	0.089	0.079			0.084	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	-	-			-	0.60	0.47			0.54	-	-
全りん (mg/L)	-	-			-	< 0.05	< 0.05			< 0.05	-	-

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料4 分析結果（周辺地下水【Ks3層、その4】）

K s 3 層 地 下 水														
調査地点	C-8					C-9								
採取日	R3.5.24	R3.9.2				R3.5.24	R3.9.2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	21.0	25.0				21.0	28.0							
水温 (°C)	15.1	18.2				15.8	22.1							
採水水深 (m) (GLより)	6.45	6.06				3.39	3.39							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	5.1	5.3				5.2	6.5	6.5				6.5	-	-
BOD (mg/L)	< 0.5	< 0.5				< 0.5	0.7	< 0.5				0.6	20mg/L	-
COD (mg/L)	1.4	1.2				1.3	4.6	4.4				4.5	40mg/L	-
SS (mg/L)	5.9	3.3				4.6	32	32				32	-	-
EC (mS/m)	23	15				19	49	44				47	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ヒ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08				< 0.08	0.10	0.09				0.10	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1				< 0.1	0.3	0.3				0.3	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出				不検出	検出されないこと (0.0005mg/L)	検出されないこと (0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001				< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002				< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004				< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002				< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002				< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001				< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.41	0.21				0.31	26	18				22	-	-
マンガン (mg/L)	0.20	0.03				0.12	2.7	2.4				2.6	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	< 0.01	< 0.01				< 0.01	17	5.6				11	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	0.19	0.02				0.11	2.1	2.2				2.2	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.066	0.069				0.068	-	-				-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	0.63	0.43				0.53	1.60	1.26				1.43	-	-
全りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05				< 0.05	< 0.05	< 0.05				< 0.05	-	-

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料5 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その1]）

K s 2 層 地 下 水														
調査地点	H24-7					No. 1-1								
採取日	R3. 5. 24	R3. 9. 2				R3. 5. 24	R3. 9. 2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	20.0	24.0				20.0	24.0							
水温 (°C)	18.1	17.0				16.6	18.4							
採水水深 (m) (GLより)	9.63	9.19				14.10	13.73							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.2	5.9				6.1	6.7	6.6			6.7	—	—	
BOD (mg/L)	< 0.5	< 0.5				< 0.5	< 0.5	< 0.5			< 0.5	20mg/L	—	
COD (mg/L)	2.6	1.9				2.3	2.5	2.8			2.7	40mg/L	—	
SS (mg/L)	8.6	1.4				5.0	4.1	2.6			3.4	—	—	
EC (mS/m)	8.3	8.5				8.4	59	52			56	—	—	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	0.006	0.011				0.009	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08				< 0.08	< 0.08	< 0.08			< 0.08	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1				< 0.1	0.2	0.2			0.2	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	4.2	3.4				3.8	0.22	0.24			0.23	—	—	
マンガン (mg/L)	0.47	0.45				0.46	0.01	0.01			0.01	—	—	
溶解性鉄 (mg/L)	2.6	1.5				2.1	< 0.01	< 0.01			< 0.01	—	—	
溶解性マンガン (mg/L)	0.32	0.25				0.29	< 0.01	< 0.01			< 0.01	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.13	0.070				0.10	0.058	0.077			0.068	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ-p-ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料6 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その2]）

K s 2 層 地 下 水														
調査地点	H24-6(2)					No. 4-2								
採取日	R3. 5. 24	R3. 9. 2				R3. 5. 24	R3. 9. 2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	23.0	24.0				22.0	25.0							
水温 (°C)	18.5	19.0				15.7	15.8							
採水水深 (m) (GLより)	9.41	8.97				14.11	13.89							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	5.8	5.8				5.8	6.4	6.5			6.5	—	—	
BOD (mg/L)	< 0.5	< 0.5				< 0.5	0.5	< 0.5			0.5	20mg/L	—	
COD (mg/L)	0.7	0.6				0.7	1.3	1.0			1.2	40mg/L	—	
SS (mg/L)	10	13				12	5.3	2.2			3.8	—	—	
EC (mS/m)	8.4	8.8				8.6	13	12			13	—	—	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08				< 0.08	< 0.08	< 0.08			< 0.08	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1				< 0.1	< 0.1	< 0.1			< 0.1	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジメチル (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	0.20	0.47				0.34	0.34	0.82			0.58	—	—	
マンガン (mg/L)	0.01	0.03				0.02	0.04	0.03			0.04	—	—	
溶解性鉄 (mg/L)	0.06	0.02				0.04	0.05	0.03			0.04	—	—	
溶解性マンガン (mg/L)	0.01	< 0.01				0.01	0.03	0.02			0.03	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.074	0.092				0.083	0.11	0.068			0.089	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾグダイン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質（水温、pH、電気伝導度等）が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料7 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その3]）

K s 2 層 地 下 水														
調査地点	H26-S2					No. 1								
採取日	R3. 5. 24	R3. 9. 2				R3. 5. 24	R3. 9. 2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	22.0	25.0				23.0	26.5							
水温 (°C)	18.6	17.4				20.7	19.2							
採水水深 (m) (GLより)	19.39	19.39				15.51	15.71							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.9	6.9				6.9	6.5	6.5			6.5	—	—	
BOD (mg/L)	0.7	0.6				0.7	1.4	0.7			1.1	20mg/L	—	
COD (mg/L)	2.1	2.2				2.2	16	18			17	40mg/L	—	
SS (mg/L)	< 1.0	< 1.0				< 1.0	27	21			24	—	—	
EC (mS/m)	23	24				24	150	160			160	—	—	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	0.021	0.034				0.028	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	0.15	0.18				0.17	0.09	0.12			0.11	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1				< 0.1	0.9	0.9			0.9	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出			不検出	検出されぬこと (<0.0005mg/L)	検出されぬこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.019	0.020			0.020	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	0.64	2.1				1.4	37	49			43	—	—	
マンガン (mg/L)	0.49	0.65				0.57	5.2	5.4			5.3	—	—	
溶解性鉄 (mg/L)	0.49	1.8				1.1	34	33			34	—	—	
溶解性マンガン (mg/L)	0.46	0.60				0.53	4.9	5.3			5.1	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.062	0.069				0.066	0.069	0.074			0.072	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ-p-ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベレーラで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料8 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その4]）

K s 2 層 地 下 水														
調査地点	No. 3-1					H24-2								
採取日	R3. 5. 24	R3. 9. 2				R3. 5. 24	R3. 9. 2							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果					現 場 測 定 結 果								
気温 (°C)	20.0	26.0				20.0	24.0							
水温 (°C)	19.6	19.8				17.5	18.4							
採水水深 (m) (GLより)	13.29	12.91				25.39	25.37							
分析項目	分 析 結 果					年間平均値	分 析 結 果					年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.8	7.0				6.9	6.6	6.7			6.7	-	-	
BOD (mg/L)	0.6	< 0.5				0.6	0.6	< 0.5			0.6	20mg/L	-	
COD (mg/L)	4.6	2.8				3.7	5.3	4.0			4.7	40mg/L	-	
SS (mg/L)	7.8	5.0				6.4	< 1.0	< 1.0			< 1.0	-	-	
EC (mS/m)	91	54				73	78	71			75	-	-	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	0.027	0.030				0.029	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	0.25	0.33				0.29	< 0.08	0.10			0.09	-	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	0.5	0.2				0.4	0.5	0.6			0.6	-	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出				不検出	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジメチル (mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.010	0.009			0.010	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	13	8.5				11	0.44	0.69			0.57	-	-	
マンガン (mg/L)	2.4	1.4				1.9	0.34	0.31			0.33	-	-	
溶解性鉄 (mg/L)	6.2	1.4				3.8	0.27	0.19			0.23	-	-	
溶解性マンガン (mg/L)	2.1	1.1				1.6	0.29	0.30			0.30	-	-	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.059	0.069				0.064	0.057	0.069			0.063	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾジ材料)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料9 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その5]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H24-4				市No. 3							
採取日	R3. 5. 24	R3. 9. 2			R3. 5. 24	R3. 9. 2						
現場測定項目	現 場 測 定 結 果				現 場 測 定 結 果							
気温 (°C)	21.0	24.0			22.0	26.0						
水温 (°C)	18.9	19.1			15.2	16.5						
採水水深 (m) (GLより)	19.50	19.50			-	-						
分析項目	分 析 結 果				年間平均値	分 析 結 果				年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	7.0	6.9			7.0	6.6	6.5			6.6	-	-
BOD (mg/L)	1.6	0.7			1.2	-	-			-	20mg/L	-
COD (mg/L)	3.8	4.6			4.2	-	-			-	40mg/L	-
SS (mg/L)	2.0	1.1			1.6	< 1.0	< 1.0			< 1.0	-	-
EC (mS/m)	71	82			77	110	110			110	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	-	-			-	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	-	-			-	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	0.10			0.09	-	-			-	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.5	0.5			0.5	-	-			-	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	-	-			-	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出			不検出	-	-			-	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	-	-			-	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	-	-			-	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-			-	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004			< 0.004	-	-			-	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-			-	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-			-	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	-	-			-	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	-	-			-	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチル (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	-	-			-	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.51	0.82			0.67	-	-			-	-	-
マンガン (mg/L)	5.0	5.9			5.5	-	-			-	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.14	0.11			0.13	-	-			-	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	4.5	5.8			5.2	-	-			-	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.058	0.085			0.072	-	-			-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾグダイナフ)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料10 分析結果（周辺地下水[Ks2+Ks3層最下流地下水]）

K s 2 + K s 3 層最下流地下水								
調査地点	K-1					年間平均値		
採取日	R3.5.24	R3.9.2					現場測定項目	現場測定結果
気温 (°C)	23.0	26.0						
水温 (°C)	15.6	14.5						
採水水深 (m) (GLより)	-	-						
分析項目	分析結果				年間平均値	安定期最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
pH	5.7	5.8			5.8	—	—	
BOD (mg/L)	1.0	< 0.5			0.8	20mg/L	—	
COD (mg/L)	7.6	7.4			7.5	40mg/L	—	
SS (mg/L)	5.6	5.0			5.3	—	—	
EC (mS/m)	68	72			70	—	—	
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08			< 0.08	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	0.8	0.8			0.8	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出			不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—	—	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	0.0004			0.0003	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	0.011	0.034			0.023	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	8.1	8.3			8.2	—	—	
マンガン (mg/L)	0.48	0.45			0.47	—	—	
溶解性鉄 (mg/L)	7.0	8.2			7.6	—	—	
溶解性マンガン (mg/L)	0.44	0.42			0.43	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.085	0.069			0.077	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なる。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンズン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料11 分析結果（表流水）

表 流 水												
調査地点	洪水調整池				経堂池							
採取日	R3.5.24	R3.9.2			R3.5.26							
現場測定項目	現 場 測 定 結 果				現 場 測 定 結 果							
気温（℃）	24.0	28.0			22.5							
水温（℃）	22.9	28.0			19.1							
採水水深（m）（水面より）	中層：0.23 m	中層：0.20 m			中層：1.0 m							
分析項目	分 析 結 果				年間平均値	分 析 結 果				年間平均値	公 共 用 水 域 環 境 基 準	農 業 用 水 基 準
pH	8.8	8.8			8.8	7.4				7.4	6.0~8.5	6.0~7.5
BOD (mg/L)	0.6	1.8			1.2	2.0				2.0	8mg/L	—
COD (mg/L)	7.5	4.9			6.2	3.4				3.4	—	6mg/L
SS (mg/L)	2.2	2.2			2.2	9.5				9.5	100mg/L	100mg/L
EC (mS/m)	15	15			15	14				14	—	30mS/m
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	—				—	0.003mg/L	—
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.05mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	0.14			0.11	< 0.08				< 0.08	0.8mg/L	—
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1			< 0.1	< 0.1				< 0.1	1mg/L	—
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	—
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	—				—	0.0005mg/L	—
PCB (mg/L)	不検出	不検出			不検出	—				—	検出されないこと (< 0.0005 mg/L)	—
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	—				—	0.01mg/L	—
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	—				—	0.01mg/L	—
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	—				—	0.1mg/L	—
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004			< 0.004	< 0.004				< 0.004	—	—
ジス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002				< 0.002	0.04mg/L	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002				< 0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001			< 0.001	—				—	0.01mg/L	—
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002	—	—
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005				< 0.005	0.05mg/L	—
鉄 (mg/L)	0.23	0.17			0.20	—				—	—	—
マンガン (mg/L)	< 0.01	0.06			0.04	—				—	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0.16	< 0.01			0.09	—				—	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	< 0.01	0.02			0.02	—				—	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.16	0.080			0.12	0.21				0.21	1pg-TEQ/L	—
全窒素 (mg/L)	0.32	0.30			0.31	0.35				0.35	—	1mg/L
全りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05			< 0.05	< 0.05				< 0.05	—	—
塩化物イオン (mg/L)	1.1	1.1			1.1	2.9				2.9	—	—

※ pg : mgの十億分の1 (1 pg=1,000,000,000分の1 mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ「ダイオキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : 水中ポンプを用い、水深の中層の水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

※ 公共用水域環境基準 : 生活環境の保全に関する環境基準項目については河川の類型D（利用目的：農業用水等）の基準値。

※ 農業用水基準 : 水稲の生育に影響を与える項目について、用水の取入口における水準として、昭和45年に農林省の公害研究会が策定したものを。